

田村 卓也

1. 事業実施の目的

調査用パスの取得および漁撈を中心とした生計維持活動の季節的変動に関する調査

2. 実施場所

ケニア共和国ナイロビ市・クワレ郡ワシニ島ワシニ村

3. 実施期日

平成 27 年 5 月 25 日 (月) から 8 月 24 日 (月)

4. 成果報告

●事業の概要

発給手続きが大幅に遅れていた調査用パスの受領に関する手続きをナイロビ市の入国管理局で行ったのち、調査地であるワシニ島に移動し、漁撈を中心とした生計維持活動の季節的変動に関する調査を行った。当初の計画では、ナイロビ市において、現地所属機関であるケニア国立博物館と日本学術振興会ナイロビ研究連絡センターを訪問して情報収集を行う計画であったが、パスの受領手続きに大幅な時間を要したため、今回の訪問は見送らざるを得なかった。

ワシニ島では、昨年度(2014 年 8 月～2015 年 1 月)に行った現地調査で得られたデータと比較しながら、生計維持活動の季節的変動を把握するために必要なデータの収集を行った。今回の調査期間は、南西からの季節風が強く吹き、天候が安定しないため、ワシニ村における主要な現金収入源である漁撈と観光産業ともに、年間の中で最も低調となる時期である。調査では、潮間帯における人びとの活動観察など、昨年度から行っている調査を継続して行うのと同時に、漁撈以外の現金収入源を持つ、非専門漁師たちの動向に注目しながらデータの収集を進めた。

観光産業が低調となるこの時期、ガイドや木造船のクルーとして働いている男性たちの多くは、十分な収入を得ることができないため、島周辺での漁撈や、島外への出稼ぎによって現金収入を得ている。そこで、こうした観光産業従事者らを中心に構成された、網漁を行うグループを対象とした参与観察を一か月間行い、非専門漁師の行う漁撈の実態を把握しようと試みた。

調査の結果、年間を通して漁撈による現金収入を得ている専門漁師たちは、その漁獲を特定の魚仲買人に販売するかわりに生活費の支援や漁具の貸与といったサポートを受けるのに対し、非専門漁師たちは仲買人のみならず、個人間において売買を頻繁に行っている様子がみられた。また、村の中では専門・非専門に関わらず、漁に関する話題が日常会話の中において交わされ、村内外の漁師の動向や、海のコンディション、魚群の移動などに関する情報がひろく共有されている。漁を行う環境が刻々と変化する中、日常の会話の中で共有される情報は、人びとが漁場や出漁時間を判断する際に参考とされるが、漁場や出漁時間などの選択時には必ず個人の経験に基づく予測が加味されていた。今後は調査をさらに継続し、専門漁師と非専門漁師が行う漁撈の違いを、それぞれが置かれた立場の違いに注目しながらさらに検討してゆきたい。

●本事業の実施によって得られた成果

ケニアにおける漁撈研究や海洋資源保護に関する議論においては、専門漁師たちの活動に大きな関心が向けられる一方、漁撈を副次的な活動として行ったり、限られた時期にのみ漁を行う非専門漁師たちの活動には大きな関心が払われてこなかったため、その実態は不透明である。今回の調査では、

聞き取りや参与観察を通して、こうした非専門漁師たちの活動の様子を具体的な形で把握することができたという点において、大きな成果を得ることができた。今後は、今回の調査で得られた成果を論文として公表し、博士論文の執筆に進展させていきたい。

●本事業について

博士論文執筆のためには、現地調査によって得られるデータが欠かせないが、長期間の調査は学生にとって経済的負担が非常に大きい。本事業は学生の研究活動を進捗させるために、非常に有益なものであり、今後の事業継続を強く望みたい。